

(日本銀行仮訳)

BIS 決済・市場インフラ委員会による改訂版報告書

「クロスボーダー送金の改善のための ISO 2022 の仕様にかかる共通要件」

要旨

BIS 決済・市場インフラ委員会（以下、「CPMI」）が纏めたクロスボーダー送金の改善のための ISO 2022 の仕様にかかる共通要件（以下、「共通要件」）は、G20 のクロスボーダー送金の改善に関するロードマップ（以下、「ロードマップ」）における重要な成果物である。ISO 2022 は、金融通信メッセージフォーマットの国際標準規格であり、送金処理においてより一貫性があり構造化されたデータのやり取りを可能にする潜在的な便益がある。これを引き出すため、本報告書における ISO 2022 の仕様にかかる共通要件は、ロードマップの目標である「より早く、より安く、よりアクセスが容易でより透明性が高いクロスボーダー送金」の達成に資するべく、公的・民間両方のセクターにおける決済システム運営者や市場参加者に向けて、一貫性をもって ISO 2022 電文規格を実装する方法に関するガイダンスを提供する。

本報告書に提示されている共通要件は規制上の要件ではなく、また、そうあるべきでもない。CPMI は、決済システム運営者や市場参加者に対し、送金電文の一貫性のあるフォーマットの設定や伝送に繋がる市場慣行を導入するよう働きかける。もっとも、こうした共通要件の採用は、最終的には個々の主体による判断によるものであり、クロスボーダー送金および国内送金において必須ではない。

法域間における送金電文規格の断片化（フラグメンテーション）や一貫性が確保されない利用が見られることは、引き続き、クロスボーダー送金における重大な障害となっている。世界中の決済システムは、共通の電文規格として ISO 2022 の採用を進めつつある。共通の電文規格の使用、そして著しくメッセージング機能が増した ISO 2022 は、クロスボーダー送金の改善に向けた相互運用性の向上を図り、ロードマップの目標の達成に資する。もっとも、ISO 2022 のグローバルな採用の進展に当たって調和が取れない場合は、便益を低下させる可能性がある。この課題に取り組むため、CPMI とグローバルなインダストリーグループである Payments Market Practice Group による官民共同のタスクフォースは共通要件を策定し、2023 年 10 月に G20 成果物として CPMI 報告書を公表した。

共通要件については、その実効性、公平性、実用性を確保する観点から、以下の幾つかのハイレベルな基準に沿って検討が進められてきた。第一に、ロードマップの目標達成に資する最も重要と考えられる取組みに焦点を当ててきた。第二に、共通要件はクロスボーダー送金の手法に中立的なものとなること。第三に、市場参加者は、2025 年 11 月に ISO 2022 へ問題なく移行した後、2027 年末にかけて、各々のペースで柔軟にクロ

スボーダー送金実務を共通要件に調和することが可能である。最後に、提示された共通要件は、現実的かつロードマップの目標達成期限内に実現可能でなければならない。

共通要件の便益の実現は、その幅広い且つ一貫性のある採用に大きく依存する。限定的、不完全、あるいは一貫性のない採用は、一段の分断に繋がり相互運用性を制限しかねない。一方で、こうした共通要件の幅広い調和は、さらなる採用を促すネットワーク効果をもたらし得る。これらの共通要件は、様々な国際的あるいは各法域のガイドラインによって取り入れられるべく、既存の市場慣行に関するガイダンスを一段と改良する。クロスボーダー送金のための ISO 20022 の仕様の調和は、特定のユーザーコミュニティあるいはユースケースを問わず、幅広く実現することが望ましい。

CPMI は、ロードマップのもと立ち上げられた G20 のクロスボーダー送金プログラムにおいて、共通要件を少なくとも 2027 年末まで維持する。その維持管理に資するよう、そしてグローバルな採用を促進させるべく、CPMI は ISO 20022 のグローバルな市場慣行グループと共同で協議体 (CPMI Harmonisation Panel。以下、「パネル」) を立ち上げた。今般公表された改訂版報告書の取り纏めにあたっては、パネルのメンバーより示唆を得ている。改訂版報告書では、2023 年以降のグローバルな標準化および規制にかかる動向を踏まえ、市場関係者による一段のガイダンス提供が求められた点において記述の明確化を行うとともに、改訂・拡充されたデータモデル (電文の入力ルール等を定めたもの) を独立した技術付属書として提示している。独立した技術付属書を提示することにより、データモデルが参照する ISO 20022 電文の年次改訂に沿うかたちで、必要に応じて、データモデルのより定期的なアップデートを実施することが可能となる。

以 上